

環境研究の基盤整備

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 国環研でなければ取り組めない長期展望のもと、基盤整備が進められていることに高く評価す。またこれらのデータが国際データベースを通して公開し、アジア地域でのデータをまとめ、国際的な機関へ提供するなど、それぞれの研究分野での貢献が認められる。【年度】
- 日本の環境研究の中心である国環研と数多くの地環研との研究協力体制について触れられることは少ないように感じた。地域環境研究も都道府県市町村でその規模や取組に大きな差異があると思いますが、その中核的立場として地域での現状や将来の活動を掌握しておくべきではないでしょうか。【見込み】
- これまでに NIES が整備してきたインフラの中で、いくつかのケースで横のつながりが出てきたことを評価する。【見込み】

今後への期待など

- 重要な試料が保存され研究に活用されていることは、国内外の研究者にとっても重要である。その点で、今後巨大災害が起きた際の試料保管に対するリスク分散を考える必要があると思う。【見込み】
- 4期全体でもデータベースの構築・充実・公開を通して、環境研究の基盤整備が継続的に進められており、国立環境研でしかできない独自の活動でもある。今後も継続した活動ができる財政的、人的整備の充実を期待したい。【年度】【見込み】
- 次世代の研究基盤として何が重要なのか考え、必要であれば組み替えて欲しい。【見込み】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 基盤整備については、モニタリング、データベース、環境標準物質、遺伝子資源、藻類株など、大学では体制や継続性などの面に対応できない活動であり、国環研独自の活動です。今後も長期的に継続するための組織や研究費の在り方について検討するのに加えて、アジア地域に留まらず、世界的にも各基盤整備が貢献出来るように推進してまいります。
- ② 「基盤的調査・研究」の中で、地方環境環境研究所との共同研究を推進しています。平成 28 年度以降、毎年およそ、のべ 145 の地方環境研究所と 18 の共同研究課題を実施して、地域・全国の環境問題の解決に貢献しています。
- ③ 2011 年の東日本大震災時でも、いずれの設備も保存試料を失うことなく、試料保管を継続することができました。それ以降、福島支部と琵琶湖分室が設立され、保存試料の分散については、こうした支部と分室を活用できないか検討したいと思えます。
- ④ 長期的に取り組む必要のある研究基盤については、予算を確保しつつ、継続的に実施できる体制構築を図っていきたいと考えております。